

留学報告書 II (2022 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾湘南藤沢高等部・2年
留学先校名	The Taft School
留学期間	2022年 9月から 2023年 6月まで

留学を振り返って

留学先では、期待どおりの生活を過ごせましたか？（留学先の良かった点・悪かった点も教えてください。）

留学先では私の期待以上の生活を送ることができ、非常に満足しています。ボーディングスクールに通っている生徒は多くが親元を離れて寮生活をしているので、自分と同じ境遇の私をすぐに仲間として受け入れてくれました。また、学期が始まる前にプレシーズンに参加し大好きなサッカーを通してチームメイトと仲良くなることができたことで、学校生活にスムーズに馴染むことができたと感じています。

唯一悔いが残る点としてあげられるのは、一年という限られた留学期間の為に十分なチャレンジを断念せざる得なかった点です。

学業に関しては、日本とカリキュラムが異なるので初めは簡単なクラスしか選択することができませんでしたが、その後少し経ってから自分で積極的に先生とコミュニケーションを取る事で自分のレベルに合ったクラスで授業を受けることが出来ました。また、スポーツに関しても1年しかおらず米国の大学進学をしないという理由で、Varsityのスポーツチームでプレーさせて貰えないということがあり大変悔しい思いをしました。しかしそれでも自分の置かれた環境下で、全力で努力しコーチやチームメイトから認められることが出来たので、今では日本から異文化のアメリカに留学している自分にとって良い試練だったのではないかと思います。

クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

クラブ活動に関して、秋シーズンはサッカー、冬シーズンはStrength & Conditioningという体力作り、春シーズンはトラック競技のクラブで活動していました。それに加えて、模擬国連のクラブにも参加して、イェール大学にて行われた大会にも出場しました。また、サッカーを冬と春のシーズンの期間も続けたかったので、外部コーチをTaftに招聘して行われたサッカーのプログラムにも参加しました。

ルームメイトはどのような方でしたか？（1人部屋だった場合は、同じ寮の友人について教えてください。）

私のルームメイトは同学年の中国人の男の子でした。私も彼もアメリカ史を選択していたので、歴史上の出来事について、その判断は正しかったのかという議論を行うことも度々ありました。また、彼は日本文化にも興味を持っていてギター演奏が得意だったので、米津玄師のLemonなどの曲を日本語の歌詞の意味を英語で伝えながら発音を教えていました。他にも、ソファや空気清浄機などの家具を二人で相談して購入したり、お互いの国のスナック菓子を交換したりすることによって関係を深めていくことができました。彼とはお互いに干渉しすぎず助け合いながら適度な距離を保って生活していたので、特にストレスが溜まるようなことはありませんでした。

学業について

各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。

The Taft School では日本と異なり、ほとんど毎週単元テストや小テストなどの課題が予定されていて、常に評価される環境でした。又、宿題も毎授業必ず大量に出され、20:00~22:00 までは勉強時間 (Study Hall) が設定されていて、全校生徒が寮または図書館で勉強しなければならない時間が設定されています。一方で、期末試験は12月の1回のみでした。Taft での学習の特徴は期末試験前に短期間で集中して勉強させるスタイルではなく、週末テストを設けることで継続的な学びを推奨していた点で、そこが日本との学業に関する相違点であると感じました。

・UM English

9人のクラスで殆どがアメリカ人の生徒で構成された英語のクラスでした。宿題は20~30ページ程度の読書で、ただ読むだけではなく重要な部分にメモを取ることが必須となっていました。そして授業では主に本の内容に関するディスカッションを行っていました。年間6冊程度の読書量で、評価は授業への参加点に加え、本の内容を題材としたエッセイによって付けられていました。また他にも模擬裁判やポッドキャスト作りなどクリエイティブな課題も時々アサインされることもありました。

・Honors Accelerated Precalculus

このクラスは微積分の前の準備段階のクラスですが、学校で最も難易度が高く進行度も早い Honors Accelerated のクラスだったので、春休み以降の学年末は微積分の基礎も学習しました。宿題はその日に行った授業の問題を出題され、次の授業の開始時に質問することができます。一単元は約2週間で履修し、毎週末に内容に関する単元テスト又は小テストがあり、それぞれの点数が成績に反映されていました。

・Honors Chemistry II (Thermodynamics / Organic Chemistry)

前期は Thermodynamics (熱力学)、後期は Organic Chemistry (有機化学) を選択していました。先生はスライドや黒板を使って授業を行い、月に1回程度実験を行い生徒の知識の習得を確認していました。又、テストやクイズも単元の終わりごとに行われていました。内容のレベルとしては日本の高校3年程度のレベルだと思います。

・US History

このクラスはアメリカ大陸がコロンブスに発見されてから現在に至るまでのアメリカの歴史について学ぶ授業で、アメリカ人はもちろんイギリス、中国、ハンガリーやハイチからの留学生によって構成されたクラスでした。宿題としては教科書を読んで理解し学習したことをワークシートとして提出すると言うことが多く、授業では教科書の内容について円形のテーブルに座ってそれぞれの意見を出し合って議論し、最終的には歴史上の出来事に対する評価を各々が考えていました。又、生徒同士が関連したトピックについて他の生徒に質問することも度々あり、私は太平洋戦争についての学習の際には原爆に対する意見や日本の教育について質問されました。学年末には自分で選択したアメリカ史に関係するトピックについて、1ヶ月程かけて12ページほどの報告書を作成するという課題がありました。

・Accelerated Spanish I

スペイン語はほとんど理解できない状態で渡米しましたが、このクラスでは冠詞や代名詞から動詞の過去形までの基礎的知識を1週間ごとにテーマを決めて学習し、毎授業繰り返し使用法を復習し、2週間に1回程度の頻度の確認テストで理解度を確認していました。クラスの殆どの生徒がスペイン語の初心者で、

僕自身と似た能力だったので、教え合いながら理解を深めることができました。先生は説明時を除いてスペイン語で説明するので、リスニング能力も向上させることができました。

・Dance for Everyone

前期は初心者向けのダンスの授業を選択していました。授業は主にヒップホップのダンスで、一月毎に実技のテストがあり、12月末には全校生徒に向けたショーにクラス全体で出演しました。途中には実技だけでなく、バレエの歴史について学び、その後に筆記のテストがありました。

・Class Piano

後期はピアノの授業を選択していました。同じクラスには初心者が多かったですが、先生がレベルに合わせて指導してくれるので上級者でも学べる環境でした。学期の初めは楽譜の読み方や音程の基礎を覚え、その後は、1週間毎に曲を練習し、週の最後の授業で、先生に進捗度を確認して頂くことができました。

今後の派遣留学生へのアドバイス

英語の勉強や日本・アメリカ文化について学ぶことも重要ですが、留学前は自分自身と向き合う時間を大切にしてください。

The Taft School を含む他の派遣留学先の学校は学力やスポーツ、芸術全てにおいて世界トップレベルだと思います。その中で世界各国から集まった生徒と対等に競争していくためには、他人には負けない自分自身だけの絶対的な長所や個性を理解しておくことが重要だと僕は考えています。例えば、私は日本人としての誠意、そして誰よりも努力できるという自信を持って留学に挑むことが出来たので、他の生徒に怯むことなくスムーズに学校に溶け込むことが出来たと思います。そして、留学先の学校は世界トップレベルの学校なので、必ず失敗・挫折することがあると思いますが、そこで挫けずに自分は慶應義塾の代表であるという誇りと自分の実力に自信を持って立ち向かって行って下さい。

それに加え、留学前に必ず留学後の自分の理想像を最終目標として設定し、最終目標を達成するために小目標も考えておいた方が良いでしょう。そのことによって、自分と最終目標との距離を定期的に把握することが出来るので、常にモチベーションを維持するという意味でも重要であると感じています。又、留学先では常に多忙なので自分のビジョンを明確化しておくことで、周囲に流されずに自制し、目標を見失わずに努力することができると思います。

最後に、留学期間はたったの1年弱なので、自分が挑戦できること全てに挑戦してみてください。その限られた時間を何にどう使うかは留学生の皆さん自身です。後で振り返ったときに後悔が残らない留学生活を送ってください。

以上